

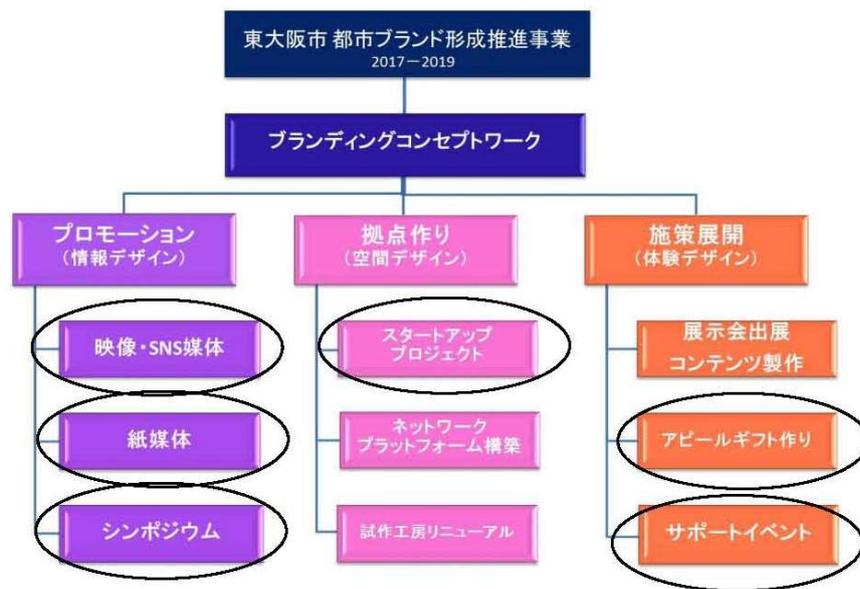
平成 31 年度 学内研究助成金 研究報告書

研究種目	<input type="checkbox"/> 奨励研究助成金	<input type="checkbox"/> 研究成果刊行助成金
	<input checked="" type="checkbox"/> 21 世紀研究開発奨励金 (共同研究助成金)	<input type="checkbox"/> 21 世紀教育開発奨励金 (教育推進研究助成金)
研究課題名	東大阪の都市ブランド形成—デザインのアプローチによる	
研究者所属・氏名	研究代表者：文芸学部:岡本清文 共同研究者：文芸学部:西野昌克、柳橋 肇、梅原宏司、後藤哲也、岩城覚久 理工学部:西藪和明 経営学部:芦塚 格	

1. 研究目的・内容

都市ブランディングに取り組んだ事例は数多くあるが、その多くは観光を目的としたものである。産業のための都市ブランディングの事例はまだ研究の余地を残している。  
大学や学生が本研究に関わることにより、「町工場」のイメージを「クリエイティブなものづくり集団」に転換できれば、若い世代の働き方にも変化を与える。  
東大阪市は、2019 年のラグビーW 杯地元開催に際し、観戦を中心とした国内外からの集客効果を、経済面と共に広報面として、「モノづくりのまち」の魅力を世界に発信する絶好の機会と捉えている。  
この機を生かして、小型製造業の技術とその持続可能性を軸にした都市ブランディング形成の研究開発を行う。

2. 研究経過及び成果



(1) プロモーション (情報デザイン) として映像、website 制作

今までの研究成果を統合した形で、東大阪市の魅力を紹介する映像を制作。すなわち、試作工房で展開するスタートアッププロジェクトとして位置づけられたオリジナル自転車を駆って、文化デザイン学科の学生が市内を巡りながら都市の魅力を再発見する。歴史的景観や工場内、さらには試作工房 SEED にも立寄り、最後に市役所の展望階から東大阪ジャンクションを、額田山展望台から市内のダイナミックな夜景を一望する、というシナリオである。学生の視点から捉えた都市像を描いた。撮影、編集、音楽、キャスティング等すべてディレクションは文化デザイン学科の学生の手により制作した。

また、本研究と連動した東大阪市からの受託事業としてブランディングサイトを制作した。

(2) 試作工房のスタートプロジェクト

東大阪市は地形がフラットであることを生かして、移動手段として自転車に注目。モノづくりに従事する人をターゲットとしたオリジナル自転車のプロトタイプを製作した。

(3) 施策展開 (体験デザイン) サポートイベントとして、オープンファクトリー第二弾

初年度は一社で点的に行ったオープンファクトリーを面として広げる為に、出張オープンファクトリーと位置づけ、5社一同に「クレアホール・ふせ」に集まり、合同事業として開催された。ラグビーワールドカップ開催に合わせ、「東大阪産業フェア」の一環として近鉄布施駅前ロータリー及び商店街で実施された。昨年のオープンファクトリーで好評を得た「工場見学ツアー」を5社が機材をクレアホールに運び込み、職人技を来場者に披露した。

(4) プロトタイプ自転車のオプションパーツ開発

学生のアイデアを基に制作したオリジナルデザイン。コンセプトは「近大文化デザインの学生 (=自分たち) が、デザインに必要な道具を持って東大阪市内をカッコよく移動するための自転車」である。

(5) シンポジウム 3 回目

全国で開催されているオープンファクトリーの関係者が本学に集まり、各地の事例報告と意義を問うシンポジウムを開催した。先駆的な取り組みをする「燕三条工場の祭典」、都市型オープンファクトリーとして「おたオープンファクトリー」を主催する関係者を招き、活動内容の紹介及び今後のオープンファクトリーの在り方、全国的な広がり方を再確認する機会であった。大阪、東京、新潟という都市がモノづくりを通じてネットワーク化される可能性を感じた。

### 3. 本研究と関連した今後の研究計画

2019年は、ラグビーワールドカップ開催年として、世界から来場する人々をターゲットに、今まで積み上げてきた研究成果を実践応用する。

- 情報デザインとして作ったタグラインやプロモーション映像を効果的に発信し、東大阪の新しいイメージを世界に向け拡散する。一方で、コンテンツを様々なコンクールに応募し、作品としての外的な評価を得る。
- オープンファクトリーを通じて全国のモノづくり都市をネットワーク化し、情報交換や人材交流を行う。
- 試作工房（SEED）の施設内でプロトタイププロジェクトやワークショップ、シンポジウムなどを推進することでプラットフォームとしての存在を高める。

### 4. 成果の発表等

発表機関名	種類(著書・雑誌・口頭)	発表年月日(予定を含む)